

○ 中学校社会 第2学年 ④

「近世の対外政策」

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領との関連	評価の観点		
			関意	思判表	知技理
(1)	日本にキリスト教を伝えた人物名を答える、基礎的な知識を問う問題である。	歴史的分野の内容(4)ア・イのうち、近世前期の対外政策を取り扱った活用問題である。			◎
(2)	資料2の伝導路と各大名の領地とを関連付けながら、解答を導き出す問題である。 キリシタン大名についての知識を有していれば、知識のみでも解答することは可能である。	本県にゆかりのある伊東マンショを手がかりに、提示された資料情報から、キリスト教を中心とした対外政策の推移をとらえさせる問題構成としている。 問題を解く際には、提示された複数の資料情報を適切に読み取り、読み取った情報と歴史の授業や地理の授業で学んだ既習知識とを関連付けながら、考察していくことが大切である。	○	◎	○
(3)	秀吉のキリスト教に対する態度が変化したことと、伊東マンショらの対応との関連を推測しながら、推測した解釈について説明する問題である。		◎	○	
(4)	資料3-①の信者数の変化と、資料4の宣教師追放例の内容とを比較・関連付けながら、仮説を導き出す問題である。		◎	○	
(5)	近世前期の外交の動きを、既習知識や提示されている図表の情報等をもとに、ポルトガル、イギリス、オランダ、中国、朝鮮それぞれに該当するグラフはどれであることを、総合的に判断する問題である。		◎	○	○

